

## 滋賀県内企業動向調査 ～18年4-6月期の実績見込みと7-9月期の見通し～ 景況感は4四半期連続のプラス

㈱滋賀銀行のシンクタンクである ㈱しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 中川 浩）では、県内企業の景況感を調査するために「滋賀県内企業動向調査」を四半期ごとに実施しています。このほど2018年4-6月期分の調査結果をまとめましたので、公表いたします。

### 【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査（2018年4-6月期）
- ・調査時期：2018年5月7日～30日
- ・調査方法：郵送による配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 924社
- ・回答数：352社（有効回答率 38%）うち製造業 162社、非製造業 190社
- ・分析手法：D I（ディフュージョン・インデックス）  
＝「かなり良い」と「やや良い」の回答割合から、  
「かなり悪い」と「やや悪い」の回答割合を引いた指数を採用

### 【調査結果の要旨】

#### 1. 現在の業況判断（P 2～4）

- ・今回調査（18年4-6月期）での自社の業況判断D Iは+14で、前回（1-3月期）の+12から2ポイント上昇、7四半期連続で回復し、4四半期連続でプラス水準になった。
- ・製造業は、前回の+12から2ポイント低下するも+10となり、5四半期連続でプラス水準を維持した。金属製品はマイナス水準からプラス水準に回復、電気機械、輸送用機械、その他の製造業はプラス幅が拡大、木材・木製品、化学、窯業・土石はプラス水準を維持した。一方、一般機械はプラス水準からもちあいに低下、食品はマイナス幅が拡大した。
- ・非製造業は、前回の+12から6ポイント上昇の+18となり、3四半期連続でプラス水準を維持かつプラス幅が拡大し、7四半期ぶりに製造業を上回った。卸売はマイナス水準からプラス水準に回復、建設、不動産、運輸・通信、サービスはプラス水準を維持、その他の非製造業はもちあいからプラス水準に回復した。小売はマイナス幅が縮小した。
- ・3カ月後（18年7-9月期）は、製造業が5ポイント低下の+5に、非製造業は8ポイント低下の+10、全体では6ポイント低下の+8と、プラス水準を維持するものの、やや悪化の見通しを示した。

#### 2. その他の判断項目（P 4～7）

- ・売上D I（前回：+2→今回：+11）は前回から9ポイント上昇、3四半期連続でプラス水準（「増加」超過）を維持した。
- ・経常利益D I（-8→+4）は、3四半期ぶりにマイナス水準からプラス水準に回復。
- ・製・商品の在庫D I（+5→+5）は前回と同水準。
- ・販売価格D I（+2→+4）はやや上昇、プラス水準を維持。
- ・仕入価格D I（+34→+34）は前回と同水準。
- ・生産・営業用設備D I（-7→-7）は前回と同水準で、8四半期連続でマイナス水準。
- ・雇用人員D I（-34→-33）は、前回と同水準で、24四半期連続のマイナス水準。

#### 3. 設備投資の実施状況（P 8・9）

- ・設備投資を実施した（する）企業の割合は49%で、前回（52%）から3ポイント低下し、3四半期ぶりに5割を下回る。
- ・主な内容（複数回答）は、「生産・営業用設備の更新」（48%）が最多。次いで「車両の購入」（31%）「生産・営業用設備の新規導入」「OA機器の購入」（ともに24%）と続いた。

【お問い合わせ先】 ㈱しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 北村（TEL：077-523-2245）

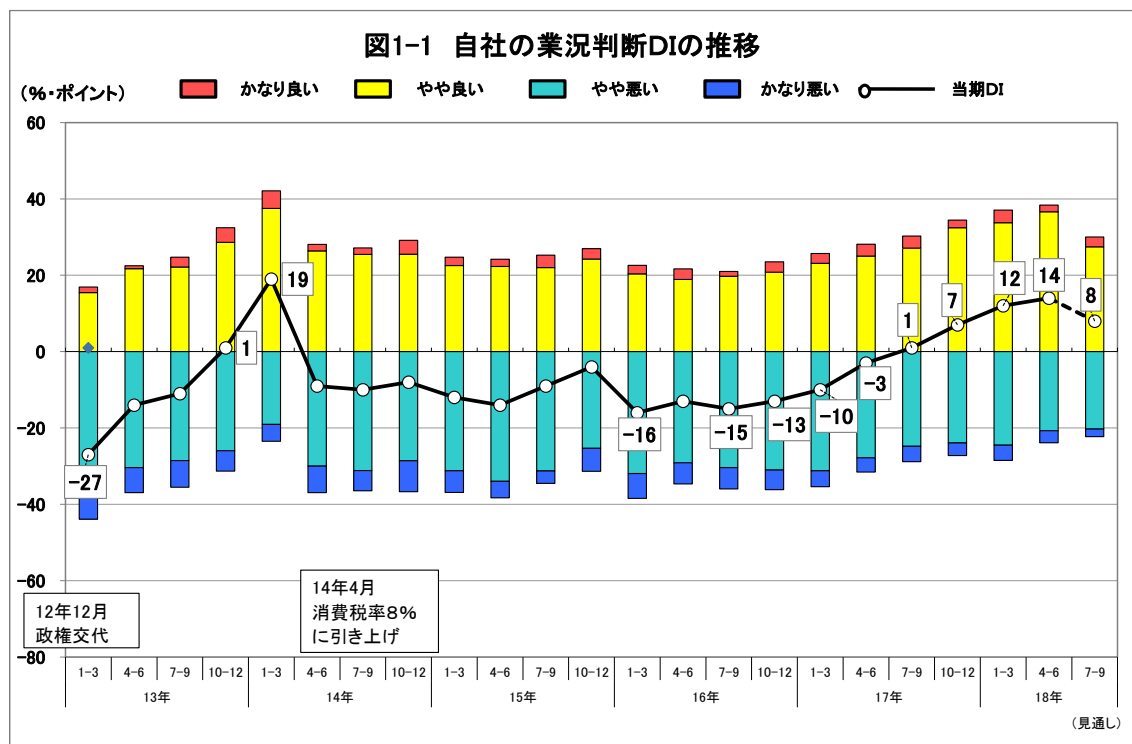
## 1. 自社の業況判断

### (1) 自社の業況判断DI…製造業は5四半期連続、非製造業も3四半期連続プラス水準

#### 1. 全体の動向 (図1-1)

今回の調査 (18年4-6月期) での自社の業況判断DIは前回 (1-3月期) の+12から2ポイント上昇の+14となり、7四半期連続で景況感は回復し、プラス水準は4四半期連続となった。

3カ月後 (18年7-9月期) は6ポイント低下し、+8とプラス水準を維持するものの、やや悪化する見通しを示した。



#### 2. 業種別の動向 (図1-2、表1)

業種別にみると、製造業は、前回の+12から2ポイント低下の+10となり、プラス幅が縮小するも、5四半期連続でプラス水準を維持した。金属製品 (-6→+25) はマイナス水準からプラス水準へ上昇、電気機械 (+53→+58)、輸送用機械 (+25→+40)、その他の製造業 (+7→+10) はプラス幅が拡大した。木材・木製品 (+43→+14)、化学 (+67→+45)、窯業・土石 (+50→+11) はプラス水準を維持した。一方、一般機械 (+27→0) はプラス水準からもちあいに低下、食料品 (-17→-24) はマイナス幅が拡大、繊維 (-47→-44) は低迷している。

3カ月後の製造業全体は、5ポイント低下の+5となる見通しである。

非製造業は前回の+12から6ポイント上昇し+18となった。3四半期連続でプラス水準を維持かつプラス幅が拡大し、16年7-9月期以来1年9カ月ぶりに製造業を上回った。卸売 (-3→+23) はマイナス水準からプラス水準に回復、その他の非製造業 (0→+13) はもちあいからプラス水準に回復した。建設 (+35→+35) は前回と同水準、不動産 (+29→+23)、運輸・通信 (+25→+7)、サービス (+5→+3) はプラス水準を維持した。小売 (-13→-4)、はマイナス幅が縮小した。

3カ月後は、現在から8ポイント低下するも+10と、プラス水準を維持する見通しである。

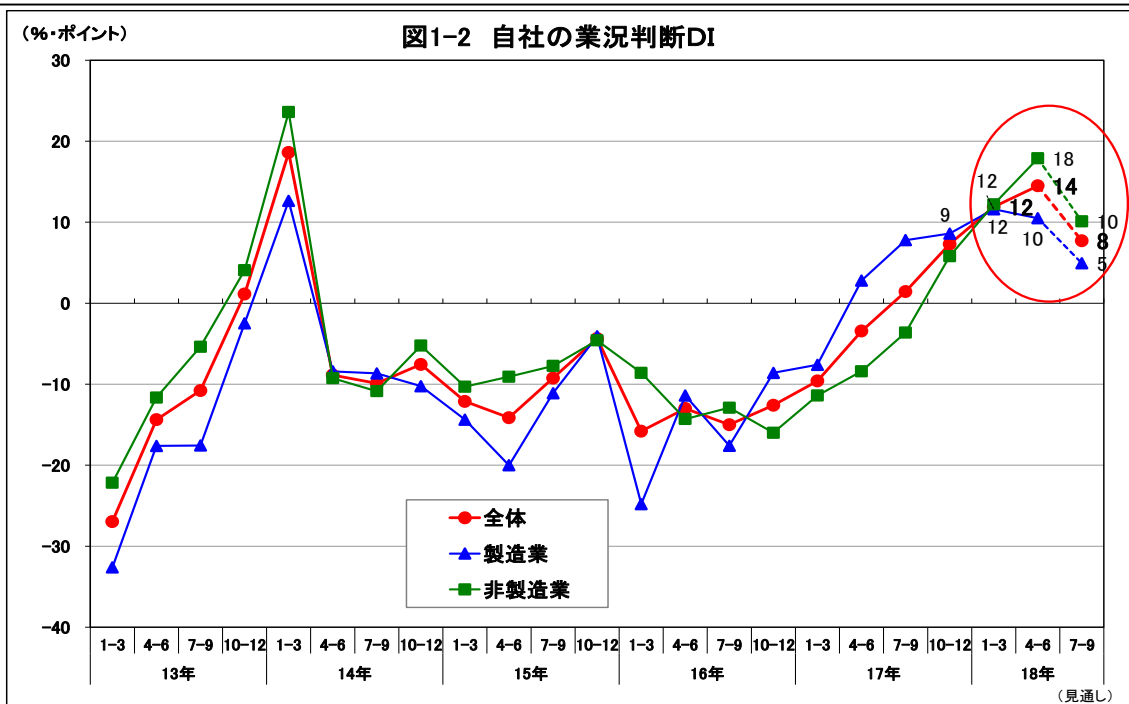


表1 自社の業況判断DI(業種別)

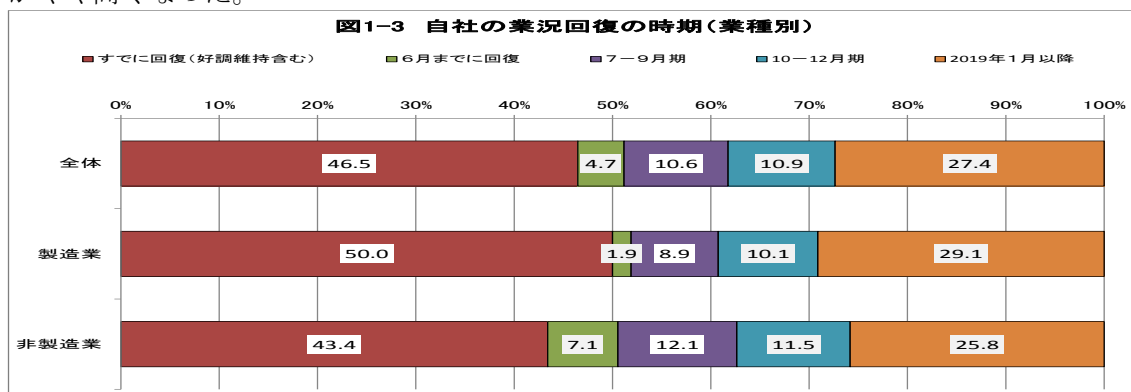
業種(※1)	今回の回答社数	18年 1-3月期 前回	18年 4-6月期 今回(※2)	18年 7-9月期 見通し
<b>全体</b>	<b>352</b>	<b>12</b>	<b>14 ( 11 )</b>	<b>8</b>
<b>製造業</b>	<b>162</b>	<b>12</b>	<b>10 ( 17 )</b>	<b>5</b>
繊維	16	-47	-44 ( -20 )	-31
木材・木製品	7	43	14 ( 57 )	0
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	11	67	45 ( 50 )	36
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	9	50	11 ( 33 )	-11
鉄鋼	×	×	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食品	17	-17	-24 ( -25 )	-24
金属製品	20	-6	25 ( 25 )	20
一般機械	14	27	0 ( -20 )	-14
電気機械	19	53	58 ( 47 )	37
輸送用機械	5	25	40 ( 50 )	20
精密機械	×	×	×	×
その他の製造業	30	7	10 ( 18 )	20
<b>非製造業</b>	<b>190</b>	<b>12</b>	<b>18 ( 5 )</b>	<b>10</b>
建設	60	35	35 ( 25 )	22
不動産	13	29	23 ( -14 )	23
卸売	30	-3	23 ( 3 )	0
小売	24	-13	-4 ( -29 )	-35
運輸・通信	14	25	7 ( 17 )	36
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	40	5	3 ( 14 )	10
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	8	0	13 ( -25 )	25

(※1) 回答数が3社以下の業種は非表示(×)

(※2) ( )内の数値は前回調査時点での4-6月期の見通し

(2) 自社の業況回復の時期…「すでに回復」(6月までに回復を含む)は5割超(図1-3)

自社の業況回復の時期をみると、「すでに回復(好調維持を含む)」した企業の割合は46.5%となり、「6月まで」(4.7%)を合わせると51.2%と前回(49.6%)より増加し、07年第3四半期以来10年9カ月ぶりに5割超となる。一方、半年以上先の「19年1月以降(不明を含む)」は3割弱(27.4%)で、前回(31.9%)より大幅に減少しており、景況感の回復がより鮮明になった。業種別では、「すでに回復(6月までに回復を含む)」した企業の割合は、製造業の51.9%に対し非製造業は50.5%と、製造業の方が回復の割合がやや高くなった。



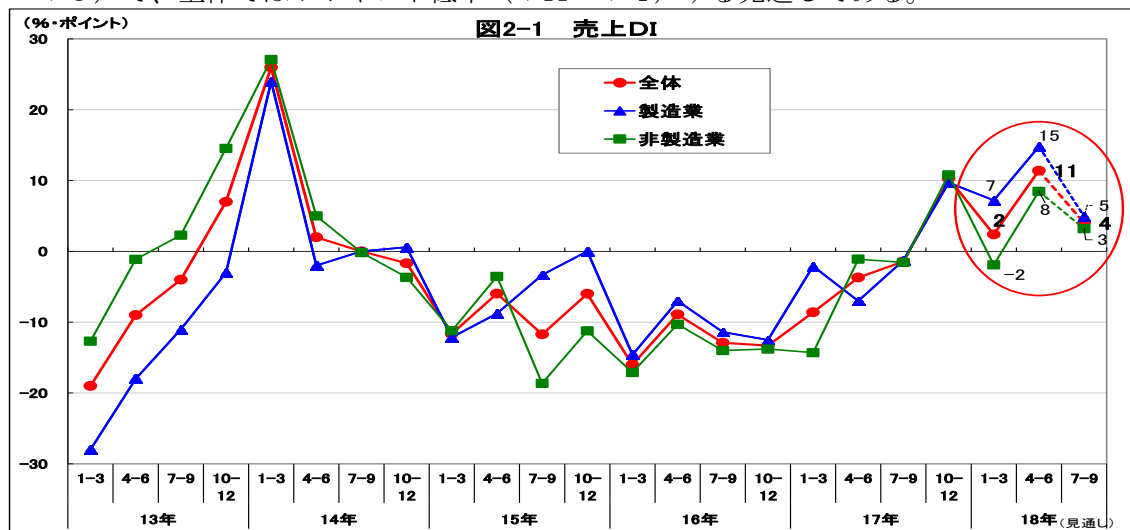
2. その他の判断項目

(1) 売上DI…3四半期連続でプラス水準を維持(図2-1)

現在の売上DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は+11で、前回の+2から9ポイント上昇、全体では3四半期連続でプラス水準(「増加」超過)を維持した。

業種別では、製造業は+7から+15に8ポイント上昇した。繊維(-33→+6)、その他の製造業(-4→+20)はマイナス水準からプラス水準に回復、金属製品(-13→0)はマイナス水準からもちあいに回復、輸送用機械(0→80)はもちあいからプラス水準に上昇した。木材・木製品(+14→+29)、化学(+17→+18)はプラス幅が拡大、窯業・土石(+67→+22)、一般機械(+20→+7)、電気機械(+53→+53)はプラス水準を維持した。食料品(-17→-18)はマイナス幅がやや拡大した。非製造業は-2から+8に10ポイント上昇し、再びプラス水準となった。サービス(-4→+3)はプラス水準に回復、卸売(+9→+20)、不動産(+17→+31)、その他の非製造業(+13→+29)はプラス幅が拡大、建設(0→+18)はもちあいからプラス水準に回復するも、小売(-21→-21)は前回と同水準、運輸・通信(-17→-21)はマイナス幅が拡大した。

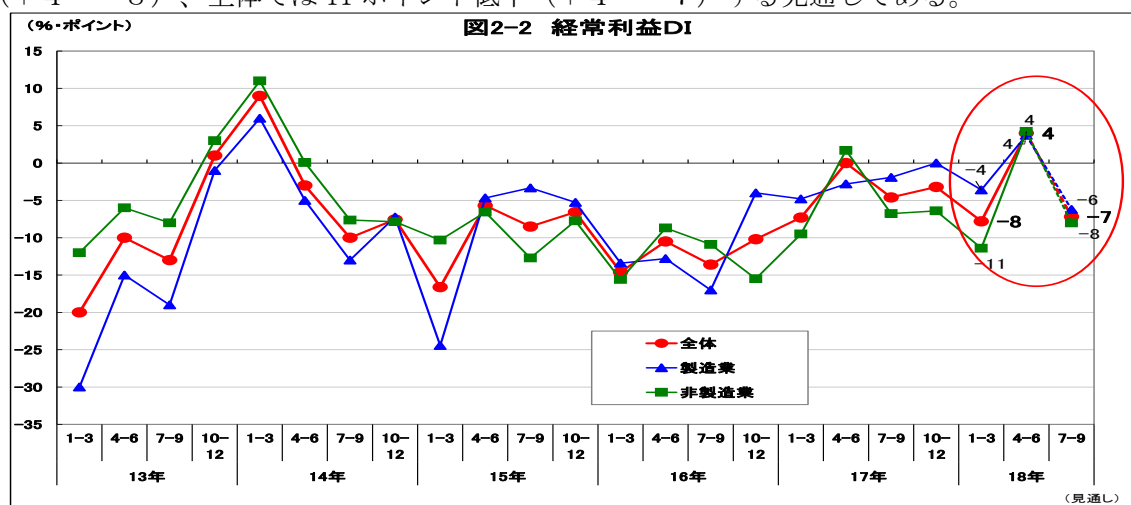
3カ月後は、製造業は10ポイント低下(+15→+5)、非製造業は5ポイント低下(+8→+3)で、全体では7ポイント低下(+11→+4)する見通しである。



## (2) 経常利益DI…3四半期ぶりにプラス水準に回復(図2-2)

現在の経常利益DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は+4で、前回(-8)から12ポイント上昇し、プラス水準に回復した。業種別にみると、製造業(-4→+4)は8ポイント上昇しプラス水準に回復した。一般機械(+33→-7)はプラス水準からマイナス水準に低下するも、輸送用機械(-25→+100)、その他の製造業(-11→+3)はマイナス水準からプラス水準に回復、繊維(-53→-6)、食料品(-42→-6)、金属製品(-31→-5)はマイナス幅が大幅に縮小した。化学(+50→+9)はプラス水準を維持した。非製造業は7ポイント上昇(-11→+4)しプラス水準に回復した。建設(-2→+18)、その他の非製造業(-25→+29)はマイナス水準からプラス水準に回復、卸売(-6→-3)、小売(-21→-13)、運輸・通信(-17→-14)、サービス(-22→-5)はマイナス幅が縮小した。不動産(0→+15)はもちあいからプラス水準に上昇した。

3カ月後は、製造業は10ポイント低下(+4→-6)、非製造業は12ポイント低下(+4→-8)、全体では11ポイント低下(+4→-7)する見通しである。

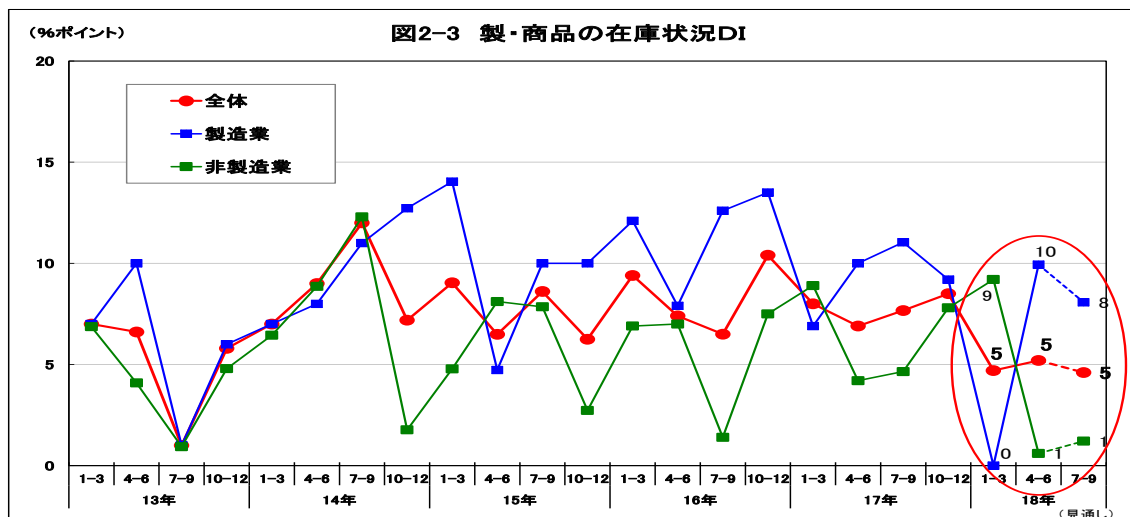


## (3) 製・商品の在庫状況DI…製造業に再び過大感(図2-3)

現在の製・商品の在庫状況DI(「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は+5で、前回と同水準であった。

業種別にみると、製造業は10ポイント上昇(0→+10)し、再び過大感が強くなった。繊維(-7→+31)、窯業・土石(-17→+33)などで過大感が強まった。非製造業は8ポイント低下(+9→+1)した。不動産(-14→-31)、卸売(+28→+13)、その他の非製造業(+14→-14)などが低下した。

3カ月後は、製造業は2ポイント低下(+10→+8)、非製造業は現状と同水準(+1→+1)となり、全体では現状と同水準(+5→+5)の見通しである。

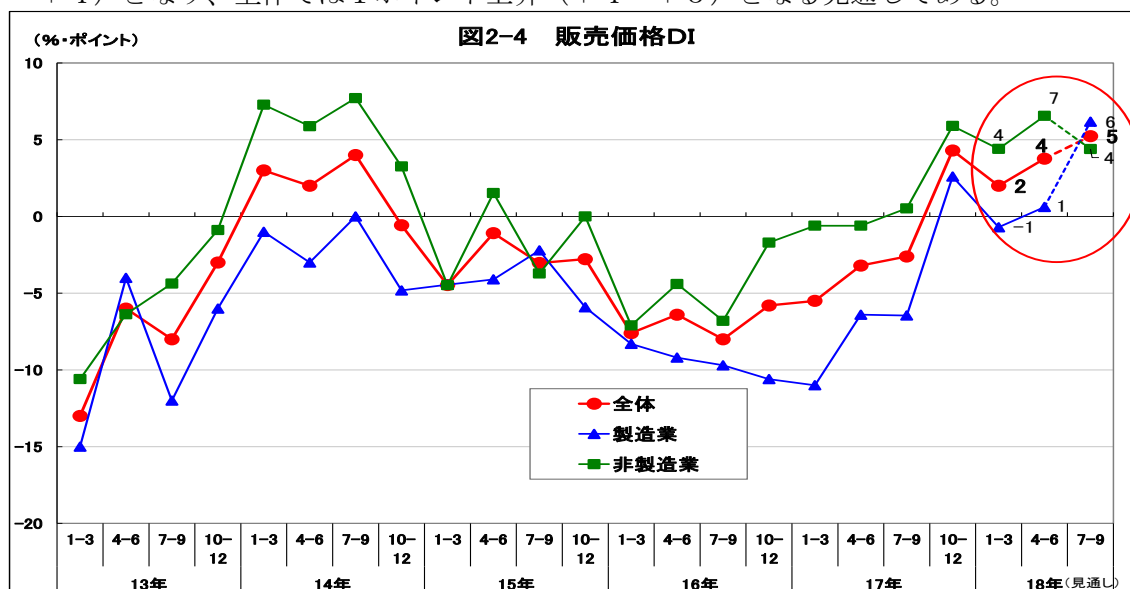


**(4) 販売価格DI…やや上昇し3四半期連続でプラス水準(図2-4)**

現在の販売価格DI(「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値)は+4で、前回(+2)から2ポイント上昇し、プラス水準を維持した。

業種別にみると、製造業は2ポイント上昇(-1→+1)した。繊維(-7→+6)、木材・木製品(+14→+29)、化学(0→+18)などが上昇し、食料品(0→-12)、金属製品(0→-10)、一般機械(-7→-14)などが低下した。非製造業は3ポイント上昇(+4→+7)した。小売(+8→+17)、運輸・通信(-9→+9)などが上昇、不動産(0→-8)、その他の非製造業(0→-13)などは低下した。

3カ月後は、製造業が5ポイント上昇(+1→+6)、非製造業は3ポイント低下(+7→+4)となり、全体では1ポイント上昇(+4→+5)となる見通しである。

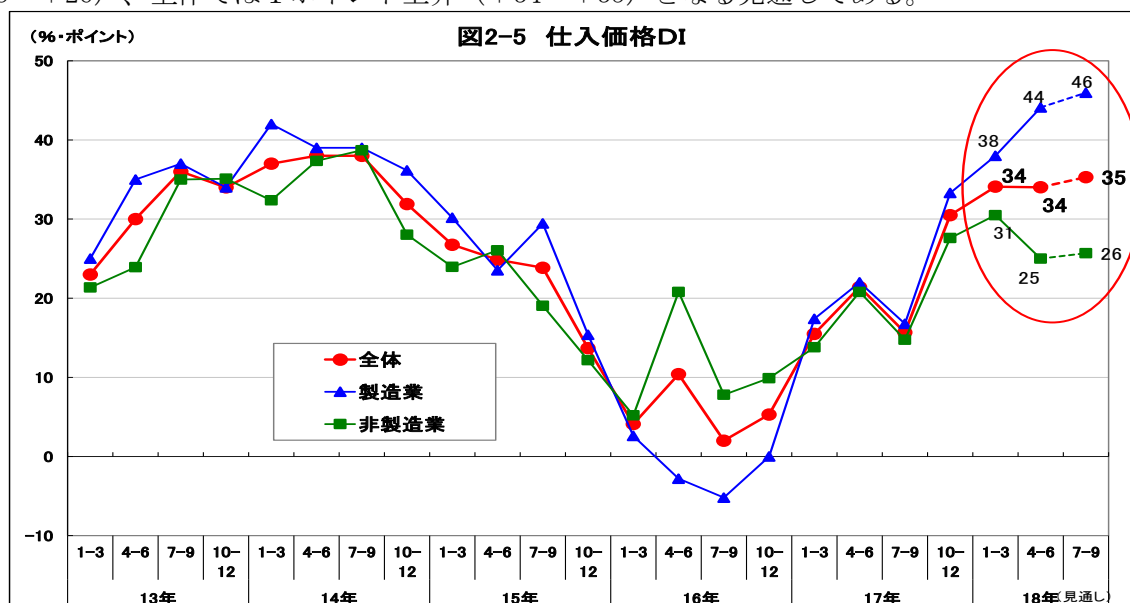


**(5) 仕入価格DI…製造業上昇、非製造業低下(図2-5)**

現在の仕入価格DI(「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値)は+34で、前回(+34)と同水準であった。

業種別にみると、製造業は6ポイント上昇(+38→+44)した。木材・木製品(+43→+71)、輸送用機械(+25→+80)などが上昇、電気機械(+53→+16)などは減少した。非製造業は6ポイント低下(+31→+25)した。運輸・通信(+55→+45)、卸売(+42→+37)、小売(+29→+25)などが低下した。

3カ月後は、製造業は2ポイント上昇(+44→+46)、非製造業は1ポイント上昇(+25→+26)、全体では1ポイント上昇(+34→+35)となる見通しである。

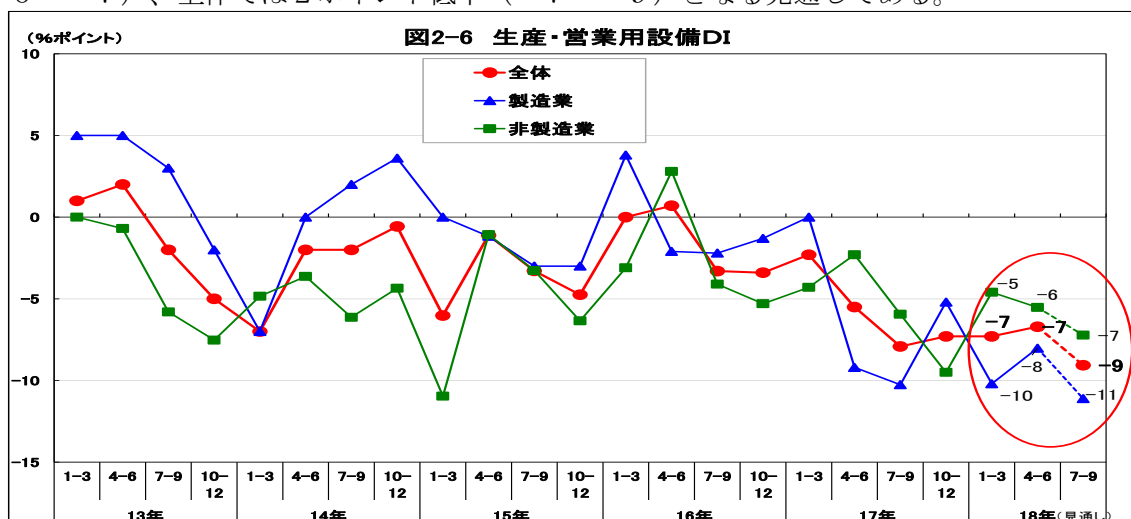


(6) 生産・営業用設備DI…8四半期連続でマイナス水準(図2-6)

現在の生産・営業用設備DI(「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は、前回と同水準の-7で、8四半期連続マイナス水準になった。

業種別にみると、製造業は2ポイント上昇(-10→-8)した。木材・木製品(-14→0)、金属製品(-6→+15)、一般機械(-7→+7)などは上昇も、繊維(0→-6)、食料品(0→-18)で不足感が拡大した。非製造業は1ポイント低下(-5→-6)した。運輸・通信(+9→-7)はマイナス水準に低下、卸売(-9→-3)は不足感が弱まった。

3カ月後は、製造業は3ポイント低下(-8→-11)、非製造業は1ポイント低下(-6→-7)、全体では2ポイント低下(-7→-9)となる見通しである。

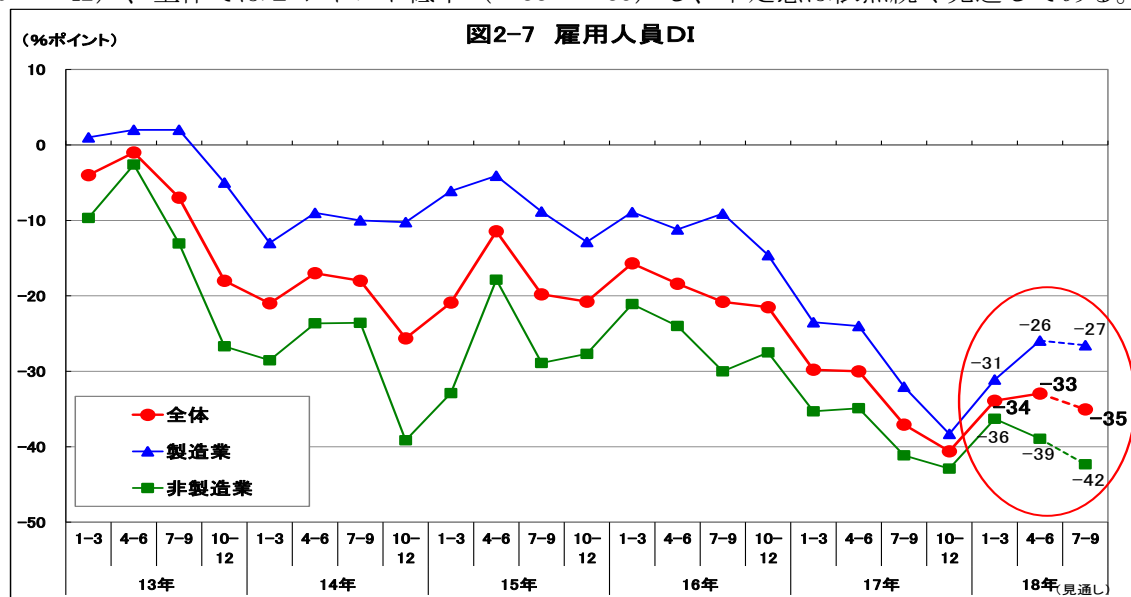


(7) 雇用人員DI…不足感やや縮小も、24四半期連続のマイナス水準(図2-7)

現在の雇用人員DI(「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は-33と前回の-34から1ポイント上昇も、12年7-9月期から24四半期連続でマイナス水準(人手不足)となり、厳しい状況が続いている。

業種別にみると、製造業は5ポイント上昇(-31→-26)した。木材・木製品(-57→-29)、化学(-33→-18)などは不足感が弱まり、食料品(-25→-47)は不足感が強まった。非製造業は3ポイント低下(-36→-39)した。不動産(0→+8)、運輸・通信(-50→-36)などは不足感が弱まるも、卸売(-24→-33)、サービス(-35→-43)、その他の非製造業(-13→-25)はマイナス幅が拡大し人手不足状況が続いている。

3カ月後は、製造業は1ポイント低下(-26→-27)、非製造業は3ポイント低下(-36→-39)、全体では2ポイント低下(-33→-35)し、不足感は依然続く見通しである。



### 3. 設備投資の実施状況

#### (1)設備投資の実施割合…3四半期ぶりに5割を割る(図3-1、表2)

今期(4-6月期)に設備投資を実施した(する)企業の割合は49%だった。前回(1-3月期)より3ポイント低下し、3四半期ぶりに50%を下回った。

業種別にみると、製造業は56%で、前回(54%)より2ポイント上昇した。繊維(33%→44%)、一般機械(47%→57%)、その他の製造業(44%→59%)などが上昇、化学(67%→45%)、輸送用機械(100%→60%)などが低下した。非製造業は44%(前回49%から5ポイント低下)で、不動産(50%→23%)、卸売(50%→40%)、運輸・通信(75%→33%)などが低下、建設(40%→42%)、小売(38%→42%)は上昇した。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が49%、非製造業が43%で全体では46%と、やや低下する見通しである。

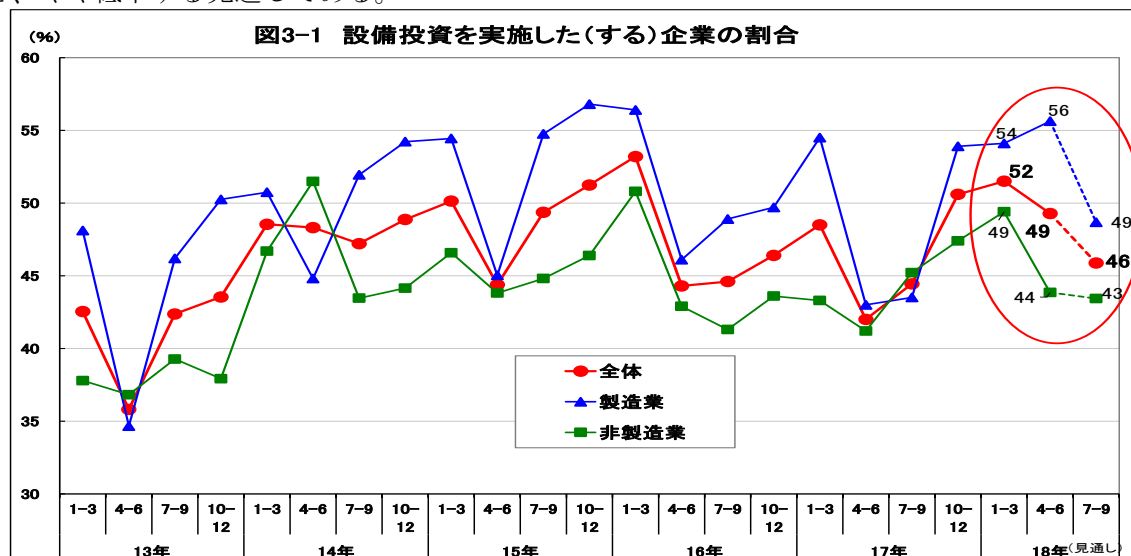


表2 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細) (%)

業種(※)	18年 1-3月期 前回	18年 4-6月期 今回	18年 7-9月期 見通し
<b>全体</b>	<b>52</b>	<b>49</b>	<b>46</b>
<b>製造業</b>	<b>54</b>	<b>56</b>	<b>49</b>
繊維	33	44	43
木材・木製品	50	29	43
紙・パルプ	×	×	×
化学	67	45	80
石油・石炭	×	×	×
窯業・土石	83	78	88
鉄鋼	×	×	×
非鉄金属	×	×	×
食料品	64	59	63
金属製品	50	50	35
一般機械	47	57	50
電気機械	60	53	35
輸送用機械	100	60	80
精密機械	×	×	×
その他の製造業	44	59	36
<b>非製造業</b>	<b>49</b>	<b>44</b>	<b>43</b>
建設	40	42	37
不動産	50	23	50
卸売	50	40	39
小売	38	42	55
運輸・通信	75	33	55
電気・ガス	×	×	×
サービス	70	67	51
リース	×	×	×
その他の非製造業	50	25	13

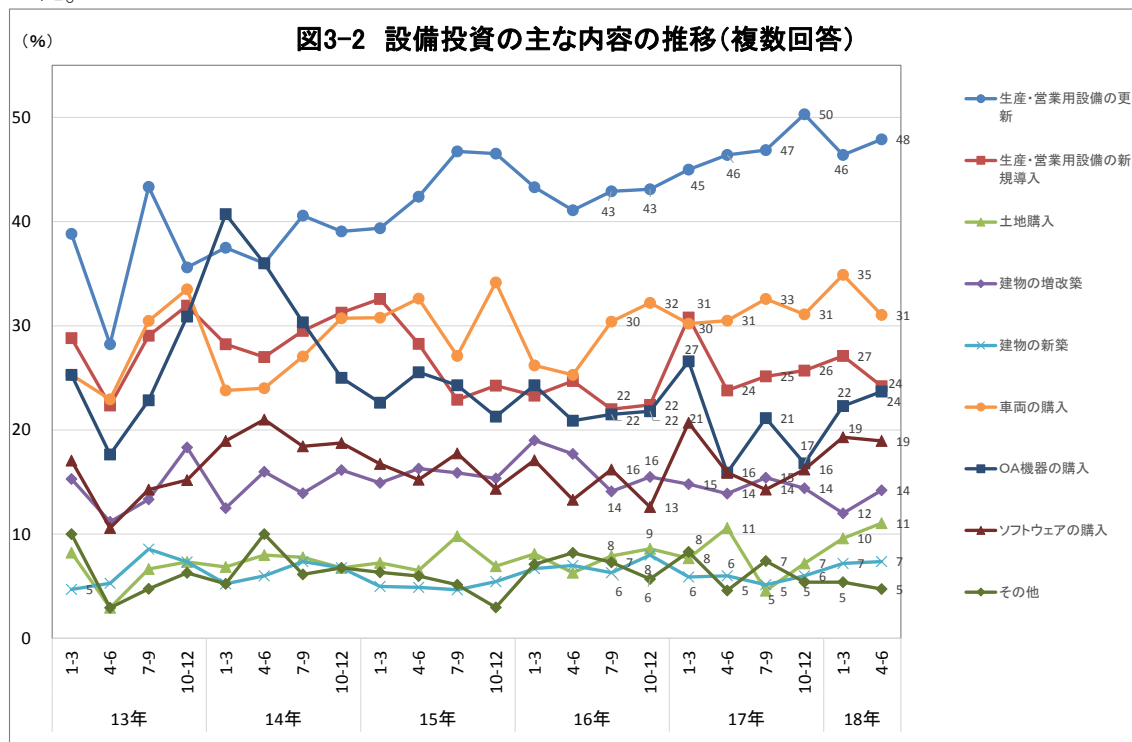
(※)回答数が3社以下の業種は非表示



(2)設備投資の主な内容…「生産・営業用設備の更新」が17四半期連続のトップ

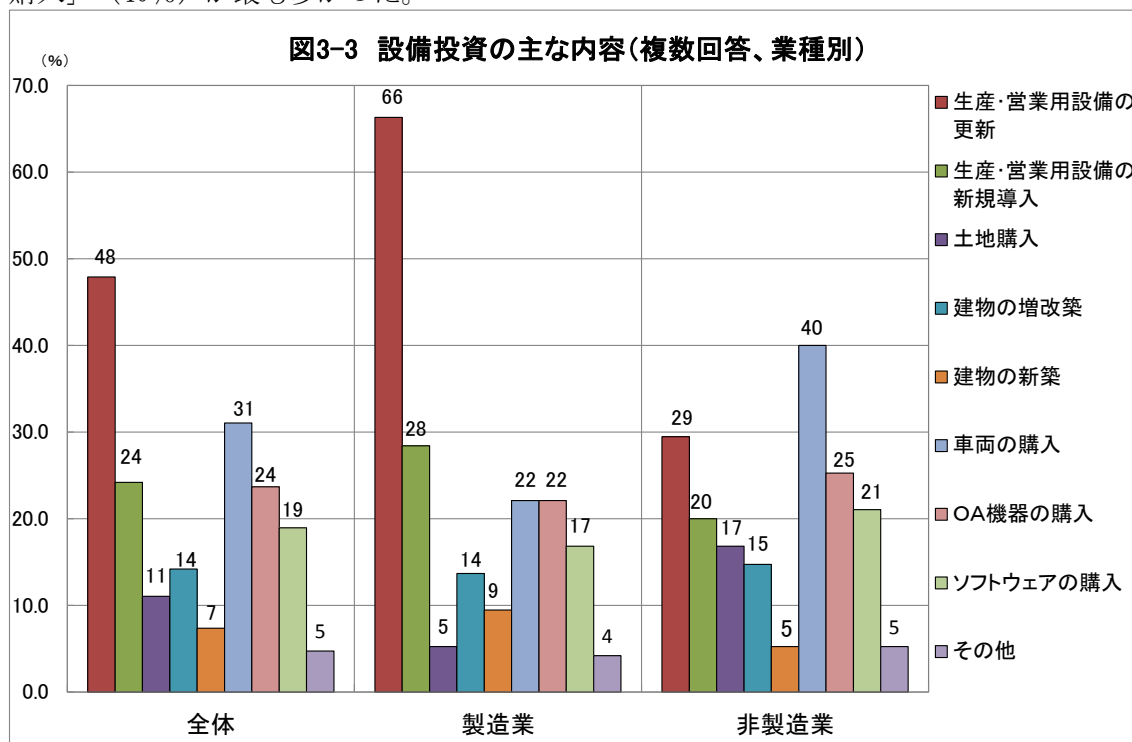
1. 全体の動向 (図3-2)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(48%)が17四半期連続で最も多かった。次いで「車両の購入」(31%)、「生産・営業用設備の新規導入」「OA機器の購入」(ともに24%)と続いた。



2. 業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(66%)、非製造業は「車両の購入」(40%)が最も多かった。



【参考資料】

1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

【製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
繊維	・受注堅調。
木材・木製品	・輸入木材も円安及び米国住宅需要増で高騰しているが、販売価格の値上げも浸透すると共に、新設住宅着工数も堅調で売上も対前年比で約6%増加。
化学	・主力品の売上好調持続。
食料品	・観光施設の集客が順調。百貨店店舗は伸び悩み傾向。
金属製品	・客先の増産の影響で売上が9%程度増加している。
一般機械	・売上高の増加（10～15%）生産予定数の増加。
電気機械	・自動車、半導体業界が良い。 ・2020年オリンピック需要より得意先への売上げ増により、10%増加した。 ・当社の主力顧客である自動車関連業界でEV化、自動運転化の進展により引合いが好調。
その他の製造業	・肉牛相場（近江牛）の高値安定の影響で売上げが確保できている。 ・売上が前年比1割増加。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
繊維	・去年投資した設備償却が開始して固定費負担が増加したが、フル稼働の見込み時期が半年遅れとなった。 ・漁業資材の市況が悪い。 ・加工の仕事に波があり安定しないところがある。
木材・木製品	・売上の減少。
化学	・中国の廃プラ輸出規制影響により国内廃プラは増加している。しかし分別コストを誰が負担するのか牽制し合っている。
窯業・土石	・大口顧客の設備故障の影響で、工業用タンカル（炭酸カルシウム）の売上が減少。
食料品	・既存品の売上減少、グループ会社からの受託終了。
金属製品	・材料品の高騰と受注数の減少。
電気機械	・輸出売上が減少したため。
その他の製造業	・メイン商品の売上20%ダウン。

【非製造業】

「良い」 (かなり良い+やや良い)

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の手持ち工事が多く、予想される繰越工事も多い。</li> <li>・今期決算(9月)売上予想、前期比+20%。来期決算予想、今期と同様が見込める。</li> <li>・前期からの仕掛として今期へ持越分が完成工事となり売上に寄与。</li> <li>・100%人員が稼働している。</li> <li>・大手自動車、部品メーカーの設備投資が好調。</li> <li>・問い合わせが増加し、受注が順調に増加している。</li> <li>・公共工事受注の好調。</li> <li>・手持工事の予定や収益率等から今後を見通した結果。</li> <li>・大型の受注工事が完了する予定。</li> </ul>
不動産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不動産の自社物件が売れた。貸収の増加。</li> <li>・賃貸の入居率が90%。</li> </ul>
卸売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釣りシーズンの幕開けと気候の暖かさ。</li> <li>・前年比大幅に増収増益基調。</li> <li>・受注残が増えている。</li> </ul>
小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末需要の影響もあって売上が増加した。</li> <li>・新規顧客の増加。車輛の保有方法の変化により自社商品が使用される頻度が増加した。</li> <li>・原料価格の安定で利益増加、今後、高騰の予想。</li> <li>・売上高が5.7%増加した(4月度実績)。</li> </ul>
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上は横ばいだが原価率低減により利益率アップ。</li> <li>・昨年の輸送より増加している。</li> <li>・物流が盛ん、荷主からのオファー多い。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共事業関連予算増加の影響で受注高が15%増加した。</li> <li>・ここ2~3年投資してきた部門の結集が出てきた。</li> </ul>
その他の非製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規取引先の開始等により、在庫が増大し、保管量が増大した。</li> </ul>

「悪い」 (かなり悪い+やや悪い)

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油の高騰により原料費、燃料費が増加した。</li> <li>・ハウスメーカーの外構工事発注減。</li> <li>・下請工事の元請工事遅れにより、自社工事の段取りが出来ず、新規工事がとれない。契約工事の解約。</li> </ul>
不動産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在庫不足。</li> </ul>
卸売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油市場の不透明感のため。</li> <li>・大手取引先との物流は不変であるが、商流が変わり、その影響が出ることは不可避である為。</li> <li>・今後の需要に期待は持てず、厳しい経営が続きそう。</li> </ul>
小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場環境の急激な変化に対応が間に合わず、本業の売上げが毎年2~3%減少の傾向がある。旧態のままでは、もはや成長性に陰りを感じる。</li> <li>・夏期に向けたガス消費量の減少。</li> <li>・前期決算において宝飾品の販売不振の影響で全体の約1割売上が減少した。</li> </ul>
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪、天候による影響で売上が減少した。</li> <li>・燃料価格の高騰による変動費上昇。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費の上昇。</li> <li>・桜のシーズンが早かった。民泊や京都の宿泊施設の数が増えた為、売上客数ともに下がった。</li> <li>・桜開花の異常な早さで売上減</li> <li>・少子化の影響で学校関係の売上げが2%減少した。</li> <li>・ディーラーは新車が売れているかもしれないが、おこぼれにはあずかれない。値段で太刀打ちできない。昔のような、義理、人情では今の若い人達に商売できない。</li> </ul>
その他の非製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬の改定。</li> </ul>

2. DI回答一覧（業種別）

項目	業況判断DI				売上				仕入価格				販売価格			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年
調査時期	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9
現在/3か月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	12	11	14	8	2	4	11	4	34	31	34	35	2	-2	4	5
製造業	12	17	10	5	7	9	15	5	38	41	44	46	-1	-4	1	6
繊維	-47	-20	-44	-31	-33	-20	6	-31	47	53	63	69	-7	0	6	13
木材・木製品	43	57	14	0	14	14	29	-43	43	43	71	57	14	14	29	14
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	67	50	45	36	17	33	18	18	67	50	55	45	0	17	18	27
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	50	33	11	-11	67	33	22	11	33	67	56	56	0	0	11	11
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-17	-25	-24	-24	-17	0	-18	-18	25	33	47	47	0	0	-12	0
金属製品	-6	25	25	20	-13	6	0	0	31	31	45	45	0	-6	-10	0
一般機械	27	-20	0	-14	20	-13	7	7	27	29	43	36	-7	-27	-14	0
電気機械	53	47	58	37	53	33	53	32	53	33	16	26	0	-7	5	5
輸送用機械	25	50	40	20	0	75	80	60	25	25	80	80	0	-25	0	0
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	7	18	10	20	-4	7	20	23	36	46	38	41	-4	-7	3	10
非製造業	12	5	18	10	-2	0	8	3	31	22	25	26	4	0	7	4
建設	35	25	35	22	0	-4	18	8	24	20	24	29	-4	-4	-3	0
不動産	29	-14	23	23	17	-14	31	0	20	25	17	8	0	0	-8	-8
卸売	-3	3	23	0	9	22	20	0	42	34	37	30	21	13	20	10
小売	-13	-29	-4	-35	-21	-42	-21	-17	29	4	25	26	8	-13	17	17
運輸・通信	25	17	7	36	-17	0	-21	0	55	46	45	55	-9	-9	9	18
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	5	14	3	10	-4	26	3	10	25	30	23	17	5	14	13	0
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	0	-25	13	25	13	0	29	14	0	-14	0	13	0	-13	-13	0

項目	経常利益				製・商品の在庫				生産・営業用設備				雇用人員			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年	18年
調査時期	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9
現在/3か月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-8	-6	4	-7	5	3	5	5	-7	-8	-7	-9	-34	-41	-33	-35
製造業	-4	0	4	-6	0	-1	10	8	-10	-12	-8	-11	-31	-38	-26	-27
繊維	-53	-53	-6	-44	-7	-13	31	13	0	0	-6	0	-20	-27	-19	-19
木材・木製品	0	29	0	-29	29	14	0	14	-14	-14	0	0	-57	-43	-29	-29
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	50	50	9	18	0	0	-9	9	-33	-33	-27	-36	-33	-33	-18	-18
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	33	33	-11	-11	-17	-17	33	22	-17	-33	-11	0	-33	-50	-22	-22
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-42	-17	-6	-19	8	8	0	0	0	0	-18	-24	-25	-25	-47	-47
金属製品	-31	6	-5	-20	0	-6	16	5	-6	0	15	15	-25	-31	-20	-25
一般機械	33	-13	-7	0	-7	0	7	0	-7	0	7	-7	-20	-20	-14	-7
電気機械	53	33	26	16	13	0	21	11	-13	-20	-11	-16	-53	-47	-47	-37
輸送用機械	-25	25	100	40	-50	-25	-20	0	-75	-75	-60	-60	-50	-50	-40	-40
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	-11	-7	3	10	7	7	7	13	0	0	-3	-7	-21	-32	-10	-23
非製造業	-11	-12	4	-8	9	7	1	1	-5	-5	-6	-7	-36	-44	-39	-42
建設	-2	-14	18	-8	5	5	7	2	-2	-2	-4	-7	-50	-60	-53	-55
不動産	0	-14	15	0	-14	-17	-31	-31	0	0	0	0	0	0	8	-8
卸売	-6	6	-3	-7	28	23	13	10	-9	-10	-3	-3	-24	-28	-33	-33
小売	-21	-42	-13	-39	13	9	13	22	-8	-13	-9	-5	-38	-46	-38	-39
運輸・通信	-17	-17	-14	0	0	0	0	9	9	9	-7	-14	-50	-50	-36	-43
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	-22	4	-5	-5	-10	-5	-11	-9	-10	-10	-11	-14	-35	-48	-43	-45
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-25	-25	29	29	14	0	-14	-14	0	14	0	0	-13	-13	-25	-38

※回答数が3社以下の業種は非表示（Xと表示）